

2010年度認知言語学セミナー「認知言語学入門：基礎から応用・実践へ」概要

- 日 時： 2010年9月10日(金) 受付は教室前で12時半から
場 所： 立教大学
講 師： 鍋島弘治朗先生(関西大学) 谷口一美先生(大阪教育大学)
内 容： このセミナーでは、認知言語学で重要となる基本的概念を取り上げ、定義をひとつずつ確認した上で、それらの概念の応用例および実践例を示していきます。認知言語学で研究を志す学部生・大学院生をはじめ、認知言語学を取り入れた指導をお考えの教員の方、他の関連領域で研究に携わる方など、基礎から応用への発展に関心のある方々を広く対象とします。
- 参加費： 一般2,000円、学生1,000円
時間割： 12:30 受付開始
13:00-14:00 第1講義(基本的前提概念の説明)
14:00-15:15 第2講義(鍋島弘治朗講師)
15:15-15:30 休憩
15:30-16:15 第3講義(谷口一美講師)
16:15-16:30 休憩
16:30-17:00 質疑応答

[第1講義(鍋島/谷口)]

認知言語学のパラダイムを構成する前提や基本概念として、次のような概念を取り上げ、日本語や英語の具体的な用例を用いながら理解を深める。

記号性	有契性	スキーマ化	カテゴリー化
図と地	イメージスキーマ	スキヤニング	主観性
領域とフレーム	メタファー	メトニミー	シネクドキ
多義	構文文法	使用依拠モデル	
メンタルスペースとブレンディング			

[第2講義(鍋島)]

テイラー(Taylor, 1989)はプロトタイプの概念を言語カテゴリー一般に敷衍したすでに古典となった好例であるが、近年、認知言語学の諸前提が互いに連携して、よりパラダイムとしての基盤を強化している例が多く見られる。認知言語学の諸概念がどのように関連し、馴染みあうのか、あるいは衝突し変容するのか、諸概念から整合性を紡ぎだす研究事例を検討するとともに、認知言語学のひとつの旗印であった身体性(embodiment)の概念がより大きな学際的パラダイムを形成するさまを検証する。

- プロトタイプ×言語 (テイラー, 1989)
- 発達×使用依拠モデル×構文(トマセロ, 2003)
- 構文文法×ブレンディング(山梨, 2009)
- メタファー×構文文法(大石, 2009)
- メタファー×身体性(バーサロー, 2008)

[第3講義(谷口)]

認知言語学の基本的概念を用いて、どのような言語分析を行えるか、具体的な実践例を挙げて示していく。特に、言語学専攻の学部生が卒業論文を作成する場合を想定し、認知言語学的アプローチによってどのような現象を取り扱うことができ、それによってどのような発見・気づきをもたらすことができるかを示す。さらに卒論のレベルから発展させ、研究のクオリティを高めるためにどのような点に留意すべきであるか、認知言語学が陥りやすい問題にも触れつつ検討する。